

スイートコーン新品種 『ララミー112』の特性と 栽培の要点

雪印種苗(株) 北海道研究農場

松田 政志



「ララミー112」の草姿

1 はじめに

スイートコーンは他の野菜に比較すると季節感のある嗜好的な作物であり、夏場を中心に6月から10月にかけて集中して店頭にならんでおります。それに付随して全国各地にあるスイートコーン産地も3月から6月の間に播種期をむかえ、播種が行われ、ハウス、トンネル、露地マルチ、露地の作型等で栽培されております。また、品種の早晩性を考慮して出荷時期や作型に合った品種を使い分けたり、用途によっては粒色が異なったりと多種多様なスイートコーンが栽培されています。スイートコーンの栽培は比較的容易であるため、品種力により収量性、秀品率、市場評価が大きく左右されます。また、近年では甘味の強い、果皮の軟らかいおいしいスイートコーンが求められ、品種選びが大切なポイントになっています。一般的に中早生クラス以降の熟期の遅い品種は食味良好で市場評価も高い傾向にありますが、早生クラスの品種は甘味ののらない果皮の硬いものが多く、剥皮後の見栄えも粒色が淡かったり、先細りの穂形であったりと、いくつかの問題点を抱えております。

品質の良くない品種は産地のイメージダウンにつながるばかりではなく、消費者のスイートコーンに対する購買意欲を低下させる原因にもなります。まして、1年の内で最も早く消費者の手に届く早生クラスのスイートコーンは味が良く、再び食べたくなるようであればなりません。

これらのことを背景とし、当社におきましても消費者、生産者ニーズにあった品種開発を進めております。バイカラー種のララミーシリーズは味

も良く、剥皮後の外見も優れており好評を得ております。来年度よりララミーシリーズの早生品種「ララミー112」を新発売致しますので、その特性と栽培の要点について紹介いたします。

2 「ララミー112」の特性

1) おいしい早生種

最近の早生品種は穂長が長く比較的ボリュームのあるタイプが多くなっています。しかし、食味に関しては甘味がなく、果皮も硬い傾向にあります。いくらボリュームがあっても嗜好的な野菜であるスイートコーンは、味が最も大切な特性となります。

ララミー112は他の早生品種に比べると甘味が強く、中早生種以降の一番おいしい熟期のスイートコーンと同じくらいの甘さを持っています。また、果皮も比較的軟らかく、かすが口の中にあま



写真1 円筒形でボリュームがある



写真2 粒色が濃くコントラストが鮮やか



写真3 包皮色は濃緑で鬼葉も大きい

表1 試験成績

品 種	絹糸 抽出 (月日)	生育 日数 (日)	稈長 (cm)	穂 重		穂 長			列数	粒色	ねじれ	乱れ	甘味	果皮 硬さ
				皮付 (g)	剥皮 (g)	全 (cm)	有効 (cm)	穂径 (cm)						
生産力検定試験 (マルチ：平成8年5月14日播種) (北海道 長沼町)														
ララミー112	8/2	107	140	438	301	19.7	18.7	5.2	16.7	7.0	6.0	6.0	8.0	4.0
他社P	8/1	107	133	438	297	20.1	18.7	5.0	15.0	5.0	6.3	6.0	7.0	3.0
他社A	8/4	110	131	422	272	19.8	19.0	4.9	17.4	5.3	6.0	6.0	7.0	3.0
品種比較試験 (マルチ：平成8年5月19日播種) (北海道 芽室町)														
ララミー112	8/1	102		455	323	20.6	19.7	5.4	15.8	7.0	6.0	6.0	8.0	3.5
他社A	7/29	99		442	279	21.1	19.1	4.8	14.4	5.0	6.0	6.5	7.0	3.0

評点基準 粒色：9(濃黄色)～1(白色)、ねじれ：9(無)～1(甚)、乱れ：9(無)～1(甚)、甘味：9(極良)～1(極不良)、果皮：9(軟らかい)～1(硬い)

り残らず早生品種の中では抜群の食味です。

2) 約98日で収穫することができる早生種

バイカラー種のスイートコーンの中では最も早い熟期に属し播種後、高冷地標準では約98日、関東標準では約85日で収穫できる早生品種です。

3) 穂径が大きく、ボリュームがあり抜群の収量性

穂長20cm前後、穂径5.2～5.5cm皮付穂重450g前後とボリュームがあります。早生品種は包皮で穂重をのせる品種が多いのですが、ララミー112は剥皮後も穂重が重たく円筒形の大型の品種です(表1, 写真1)。

4) 小粒多粒列タイプで粒色、粒列が美しい

粒列は16～18列の多粒列タイプです。また、粒の黄色が濃く、白色とのコントラストが鮮やかなバイカラー種本来の穂の美しさを持ったスイートコーンです(写真2)。

5) 包皮の締まりは良く、包皮色は濃緑色

早生品種は先端部の包皮の締まりが悪い傾向にありますが、ララミー112は良好な部類に入ります。

また包皮色は濃緑色で鬼葉も中～大で見栄えがしますので市場性にも優れています(写真3)。

6) 穂が直立し収穫しやすい

穂の着く角度がやや上向の直立状態であるため収穫が容易です。また穂柄もあまり長ならず、やや細身であるため、調整も容易にできます。

3 「ララミー112」の栽培の要点

1) 適作型

ララミー112はハウス、トンネル栽培よりも露地マルチ、露地栽培に適しており、先端稔実の良好な、大型の穂を収穫することができます(図1)。

2) 圃場の選定と施肥

スイートコーン栽培は耕土が深く、排水性良好な有機質に富んだ肥沃な、乾燥しにくい圃場が適しています。圃場づくりは完熟した堆肥等を多く入れて地力、保水力を高め生育を良好にし、しっかりした茎葉を作っていくよう心がけます。施肥

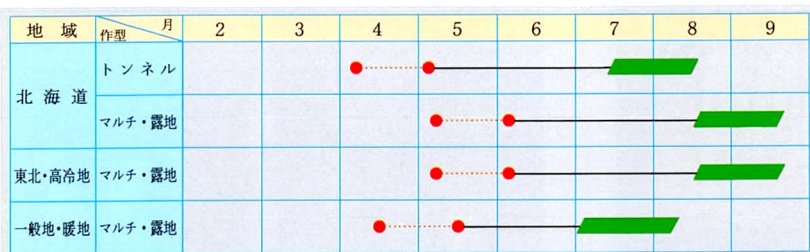


図1 栽培時期

● 播種期 — 生育期 ■ 収穫期

表2 栽植密度試験

(北海道 長沼町)

品 種	本数 (10a当たり)	絹糸 抽出 日数	生育 日数 (日)	稈長 (cm)	穂 重			穂 長		穂径 (cm)	列数
					皮付 (g)	剥皮 (g)	全 (cm)	有効 (cm)			
(マルチ：平成8年5月14日播種)											
ララミー112	(3,125本)	8/2	107	136	453	312	20.1	19.8	5.3	16.6	
〃	(3,333本)	8/2	107	139	424	295	19.4	19.1	5.1	16.1	
〃	(3,571本)	8/2	107	135	428	299	19.3	18.9	5.2	17.7	
他社A	(3,125本)	8/2	107	141	428	289	20.1	19.6	5.1	17.4	
〃	(3,333本)	8/2	107	134	428	290	19.8	19.3	5.1	17.8	
〃	(3,571本)	8/2	107	133	416	289	19.9	19.5	5.0	17.6	

*ララミー112は栽植本数を抑えることにより皮付穂重450g以上となり、有効穂長も長くなりました。

については土壌診断をおこない施肥標準を参考に
して行います。窒素の多用は肥料やけや穂の偏平
化の原因になりますので、追肥を考慮に入れた施
肥設定が必要です。

3) 栽植密度

スイートコーンの栽培においては総収量ではな
く、Lクラス以上の収量が多くなるように、また、
先端の稔実が良くなるよう最適栽植本数を検討
する必要があります。最近の北海道、東北などの
スイートコーン産地では、10 a 当たりの栽植本数
を3,000本前後に抑え、大型で先端稔実の良い秀
品を生産する傾向があります。ララミー112も通
常の栽植密度よりも、このようなやや粗植の栽培
に適しております(表2)。

4) 播種

ララミー112は発芽の良い品種ですが、良好な
発芽と初期生育を得るためには、地温が13°C以上
になってから播種することが必要です。播種量は
1株当たり2~3粒とし、特に低温期には、3~4
粒としてチウラム剤を粉衣して播くことにより、
土壌中での腐敗を防ぎ欠株防止につながります。

5) 追肥

本葉6~7葉期(播種後30~40日)と絹糸抽出
期(播種後60~70日)の2回程度に分け全施肥量

の1/2~1/3は追肥でまかな
ない、穂の生育を確実に進め
てやります。また、この時
期のかん水は肥効を高める
ばかりでなく穂の大きさ、
先端稔実等の品質向上に好
影響を与えます。

6) 無除けつ栽培

除けつにより主稈を痛め
たり、除けつの時期によっ
ては、収量減になることが
確かめられております。強
い分けつが出る場合以外は
除けつは行わないようにし
ます。

ララミー112は分けつや
第2、第3の穂の発生が他
の早生品種より少ない傾向

にありますので、葉面積確保の点からも、除けつ
や除房の必要は特にありません。

7) 収穫

収穫適期は果粒内の水分が68~72%に達する絹
糸抽出後、23~25日(露地栽培)ですが、栽培管
理、気候条件により差が生じますので、甘味のの
っていない未熟穂や、粒の硬化した過熟穂になら
ないように、適期の収穫に心がけて下さい。

4 むすび

以上、新品種『ララミー112』の特性、および、
栽培の要点について紹介いたしましたが、今後、
有利な経営、有利な栽培を目指す中で、この品種
を、ぜひ利用していただくことを期待し、かつ、
お願い申し上げます。

